海外だより

韓国気象学会に招待されて

住　明正*

1987年4月22日～26日にかけて，韓国気象学会の春季大会に招待され，韓国の気象学会を訪問したので，簡単にその印象を述べてみたい．

韓国の気象学の状況は，大学ではソウル国立大学にProfessorが6名，延世大学に4名，その他，気象台及び気象研究所という陣容のようである．大学の顔ぶれは，ソウル国立大学の2名の古手の教授を除いては，皆，アメリカ帰りのPh. Dを揃え，意気さかんという所であった．

気象学会は，4月24日の午前中から延世大学で開かれ，会長の挨拶の後，筆者が講演をして，午前中は終了し，学会発表は，4月24日の午後と4月25日の午前で，論文数は，約15程度であった．韓国は，昨年来，春の大会には，外国人を招待することになったらしく，昨年は，OregonのGatesが招待されたそうであった．筆者は二番目らしく，又，その記念に史上最古と云われる李朝時代の雨量計を表わした牌をいただいた．

大会参加者は，約80名程度，大学院の学生が多く，主たる議論は，Kim教授，Dr. Kang，Dr. Leeなど，アメリカ帰りの教授連が行っており，大会参加者は，それを黙って聞いている，という風であった．

そもそも，今回の訪韓は，Dr. Kangが呼んでくれたので，彼と良く話していたのだが，彼は「levelは決して日本に劣らないが，孤立しているのがつらい（議論する相手がいない）」とこぼしていた．唯，現在の如く，教授連中の教育を全く米国に頼るというのは，問題のように思え，事実，Dr. Kangも，韓国で学位をとった学生を，スタッフに迎えるようにしなければ駄目と力説していた．

政治的情勢が微妙で，筆者が訪韓した時も，ソウル大の一部には催涙ガスが残っていた．Dr. Kang始め，アメリカ帰りの人達には，故国は良いものの，この政治的情勢が苦労の種のようでした．

計算機が不自由のなかで，数値モデリングには相当の努力をさいている様に見受けた．NWPも同様です．気象庁の北出さんが半年間指導された人達を中心に，大学と気象台が協同して開発にあたっていた．唯，韓国は，NWPをするには小さく，Mapをみても，気象庁のVFMで十分だなあっという印象は，否めないものでした．

今年は，中国・韓国・インドネシアと，アジアづいていますが，アジアとつき合うのは，より本音に近い分だけ大変ですが，将来を考えるならば，真剣にとり組んでゆくべき問題でしょう．決意も新たに，成田に降り立ちました．

* Akimasa Sumi，東京大学理学部地球物理学教室

情報 File

Budyko教授 WMO/IMO賞受賞

わが国でも著名な，ソ連の水文学研究所のブデイコ博士が，1987年のWMO/IMO賞の受賞と決定した．

（住　明正）